

NUTRITION ENRICHED COMPOSITION

Publication number: JP10099048

Publication date: 1998-04-21

Inventor: KAWAKAMI HIROSHI; IDOTA TADASHI

Applicant: SNOW BRAND MILK PROD CO LTD

Classification:

- **International:** A23C9/158; A23L1/29; A23L1/30; A23L1/302;
A23L1/305; A61K31/035; A61K31/185; A61K31/195;
A61K31/20; A61K31/355; A61K31/575; A61K31/66;
A61K31/70; A61K38/16; A61K39/395; A23C9/152;
A23L1/29; A23L1/30; A23L1/302; A23L1/305;
A61K31/02; A61K31/185; A61K31/352; A61K31/575;
A61K31/66; A61K31/70; A61K38/16; A61K39/395;
(IPC1-7): A23L1/30; A23L1/302; A23L1/305;
A61K31/035; A61K31/185; A61K31/195; A61K31/20;
A61K31/355; A61K31/575; A61K31/66; A61K31/70;
A61K38/16; A61K39/395

- **european:**

Application number: JP19960256978 19960927

Priority number(s): JP19960256978 19960927

[Report a data error here](#)

Abstract of JP10099048

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a compsn. to be added to formulated milk for body so that the formulated milk excellent in nutrition can be easily prepared, by incorporating specified proportions of taurine, arginine, cholesterol, phospholipid, docosahexaenoic acid, arachidonic acid, etc. **SOLUTION:** This compsn. by 100g dry weight contains 0.02 to 2wt.% taurine, 0.2 to 20wt.% arginine, 0.1 to 10wt.% cholesterol, 0.1 to 10wt.% phospholipid, 0.2 to 20wt.% docosahexaenoic acid, 0.1 to 10wt.% arachidonic acid, 0.05 to 20wt.% diallyllosglyceraldehyde, 0.001 to 0.1wt.% β -carotene, 0.01 to 1wt.% α -tocopherol. Further, 0.3 to 30wt.% immunoglobulin and 0.7 to 70wt.% lactoferrin phenyline are incorporated to obtain the compsn. of the purpose.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-99048

(43)公開日 平成10年(1998)4月21日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

F I

A 2 3 L 1/30

A 2 3 L 1/30

Z

1/302

1/302

1/305

1/305

A 6 1 K 31/035

A 6 1 K 31/035

31/185

31/185

審査請求 未請求 請求項の数 2 OL (全 5 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号

特願平8-256978

(71)出願人 000006699

雪印乳業株式会社

北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号

(72)発明者 川上 浩

埼玉県川越市大字藤間204-5

(72)発明者 井戸田 正

埼玉県川越市大字小室513-7

(54)【発明の名称】 栄養強化組成物

(57)【要約】

【課題】 栄養強化組成物の提供。

【解決手段】 タウリン、アルギニン、コレステロール、リン脂質、ドコサヘキサエン酸、アラキドン酸、シアリルオリゴ糖、 β -カロチン、及び α -トコフェロールを特定の比率で含有することを特徴とする、栄養強化組成物。さらに、前期組成物に免疫グロブリン及びラクトフェリンを含有することを特徴とする、栄養強化組成物。

【効果】 栄養学的に優れ且つ簡便に用いられるものであり、容量を適時変えながら乳児用調製乳に添加することによって、母乳に近い成分変化が人工栄養で実現でき、従来单一組成であった人工栄養の欠点を解消することができる。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 組成物の乾燥重量100gに対し、タウリンを0.02～2重量%、アルギニンを0.2～20重量%、コレステロールを0.1～10重量%、リン脂質を0.1～10重量%、ドコサヘキサエン酸を0.2～20重量%、アラキドン酸を0.1～10重量%、シアリルオリゴ糖を0.05～20重量%、 β -カロチンを0.001～0.1重量%、及び α -トコフェロールを0.01～1重量%含有することを特徴とする栄養強化組成物。

【請求項2】 請求項1記載の栄養組成物100gに対し、重量換算で免疫グロブリン0.3～30重量%及びラクトフェリン0.7～70重量%を含有することを特徴とする栄養強化組成物。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】 本発明は、タウリン、アルギニン、コレステロール、リン脂質、ドコサヘキサエン酸、アラキドン酸、シアリルオリゴ糖、 β -カロチン、及び α -トコフェロールを特定の比率で含有することを特徴とする、栄養強化組成物に関する。さらに、前期組成物に免疫グロブリン及びラクトフェリンを含有することを特徴とする、栄養強化組成物に関する。本発明の栄養強化組成物は、栄養学的に優れ且つ簡便に用いられるものであり、容量を適時変えながら乳児用調製粉乳に添加することによって、母乳に近い成分変化が人工栄養で実現でき、従来单一組成であった人工栄養の欠点を解消することができる。

【0002】

【従来の技術】 現在市販されている乳児用調製粉乳は、出生直後から9カ月頃までの成熟児を対象に使用されている。したがって、出生直後の新生児も、体重が10kgに近い9カ月児も、哺乳量が異なるために摂取量には変化があるものの、同じ組成(成分)の乳児用調製粉乳を飲んですることになる。しかしながら、母乳は分娩直後に分泌される初乳(分娩後～5日)と、その後の移行乳(6～14日)、及び15日目以降の成熟乳で、含まれる成分の含量だけでなく、その種類も大きく異なることが知られている。このような中、ヨーロッパでは乳児の月齢をいくつかの区分に分け、それぞれの月齢に適した成分を含む粉乳が市販されている。たとえば、スウェーデンでは、出生後～1ヶ月、2ヶ月～3ヶ月、4ヶ月～5ヶ月、6ヶ月～7ヶ月、8ヶ月以降で使用月齢を限定した粉乳が使用されている。しかしながら、それぞれの粉乳に含まれる成分の違いは、蛋白質とミネラルの含量だけであり、各泌乳期ごとの母乳に特徴的に含まれる個々の成分(たとえば、免疫グロブリン・ラクトフェリン・シアリルオリゴ糖・ β -カロチンなど)の量や種類を調整したものではない。又、従来から低出生体重児を対象に、母乳成分を補うことを目的とした母乳強化剤(Human milk fortifier)という栄養強化組成物が市販

されている。しかしながら、この栄養強化組成物は、低出生体重児が必要とする栄養素(蛋白質及びミネラル)の量が母乳だけでは不足することから、母乳のもつ利点を生かしながら、母乳に不足する蛋白質とミネラル成分だけを強化したものであり、使用対象を低出生体重児に限定している。すなわち、蛋白質としては、通常の乳児用調製粉乳には十分含まれる牛乳蛋白質(カゼイン及び乳清蛋白質)を強化しているだけで、ミネラル成分としては、ナトリウム、カルシウム、リン、マグネシウム、鉄などを強化しているだけである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明者らは、上述の状況に鑑み、各泌乳期ごとの母乳に特徴的に含まれる免疫グロブリン、ラクトフェリン、シアリルオリゴ糖、 β -カロチンなどの個々の成分を含む成分濃縮強化物を鋭意研究した結果、蛋白質やミネラルの含量だけを変えるのではなく、これら個々の成分を特定の量で配合することにより、栄養学的に優れ、且つ簡便に用いられる栄養強化組成物を見出した。よって本発明は、容量を適時変えながら乳児用調製粉乳に添加することによって、母乳に近い成分変化が人工栄養で実現でき、従来单一組成であった人工栄養の欠点を解消することができる栄養強化組成物を提供することを課題とする。

【0004】

【解決するための手段】 本発明は、タウリン、アルギニン、コレステロール、リン脂質、ドコサヘキサエン酸、アラキドン酸、シアリルオリゴ糖、 β -カロチン、及び α -トコフェロールを特定の比率で含有することを特徴とする栄養強化組成物、さらに免疫グロブリン及びラクトフェリンを含有することを特徴とする、栄養強化組成物に関する。

【0005】

【発明の実施の形態】 本発明栄養強化組成物は、組成物の乾燥重量100gに対しタウリン0.02～2g、アルギニン0.2～20g、コレステロール0.1～10g、リン脂質0.1～10g、ドコサヘキサエン酸0.2～20g、アラキドン酸0.1～10g、シアリルオリゴ糖0.05～20g、 β -カロチン0.001～0.1g及び α -トコフェロール0.01～1gを含む。又、感染症の予防のような生体防御機能を高めるために、前記栄養強化組成物100gに対し、免疫グロブリン0.3～30g及びラクトフェリン0.7～70gを加えてもよい。この栄養強化組成物を通常の育粉調乳液100mlあたり、出生後～2週目には0.1～10g、2週～1カ月には0.02～2g、1カ月～2カ月には0.01～1gというように、添加量を適時変えながら加えることによって、母乳に近い成分変化が人工栄養でも実現できる。又、この栄養強化組成物は液状で利用してもよく、その場合には-20℃で凍結保存することができる。液状栄養強化組成物100ml当たり、

タウリン0.005~0.5g、アルギニン0.05~5g、コレステロール0.01~1g、リン脂質0.01~1g、ドコサヘキサエン酸0.05~5g、アラキドン酸0.01~1g、シアルオリゴ糖0.01~5g、 β -カロチン0.05~5mg、及び α -トコフェロール0.001~0.1gが含まれる。又、この液状栄養強化組成物に、100mlあたり免疫グロブリン0.02~5g及びラクトフェリン0.05~10gを加えてもよい。これらの場合、液状栄養強化組成物は、通常の乳児用調製粉乳の調乳液100mlあたり、出生後~2週目には10~5ml、2週~1ヶ月には5~3ml、1ヶ月~2ヶ月には3~1mlというように、容量を適時変えながら添加することによって、母乳に近い成分変化が人工栄養でも実現できるようになる。

【0006】さらに、本発明における栄養強化組成物には、乳児にとって重要な成分であるビタミン類(A、B1、B2、B6、B12、C、D、K、葉酸、ニコチン酸、パントテン酸、ビオチン、イノシトール、コリンなど)、ポリアミン類(スペルミン、スペルミジンなど)、核酸類(ヌクレオシド、ヌクレオチド、DNA、RNAなど)、ミネラル類(カルシウム、マグネシウム、ナトリウム、カリウム、銅、鉄、亜鉛、イオウ、セレン、ヨウ素、塩素、リンなど)、有機酸類(クエン酸、プロピオン酸、酢酸、乳酸、ビルビン酸など)、酵素類(リゾチーム、ラクトパーオキシダーゼ、リバーゼなど)を適時添加することもできる。このような栄養強化組成物を用いることによって、従来単一組成であった人工栄養の欠点を解消できる。又、泌乳期ごとに異なる濃度の成分を含む人工乳を摂取することによって、乳児の未熟な代謝機能に過度の負荷をかけないばかりか、生体防御機能のある成分(免疫グロブリン、ラクトフェリン)も添加することによって、免疫力の弱い出生直後の新生児をさまざまな感染から守ることもできる。

【0007】本発明による乳児用調製乳用強化物を構成する成分は、市販されている素材、あるいは食品として使用できるものであれば、特にその由来は限定されない。例えば、免疫グロブリンとしては、ウシ初乳粉末、あるいは牛乳、ヤギ乳、人乳などの初乳を脱脂した後に、分画分子量100,000の限外ろ過膜(UF膜)で濃縮することにより、免疫グロブリン素材を調製することができる。又、妊娠中の動物に特定の抗原を免疫し、出産後に分泌される特定の抗原に対する抗体を含有する免疫乳を脱脂し、同様の方法で調製した濃縮乳を免疫グロブリン素材として用いることもできる。ラクトフェリンとしては、特開昭63-255300号の方法などに準じ、牛乳、ヤギ乳、あるいは人乳などの脱脂乳を硫酸化した不溶性の担体(硫酸化セルロファインなど)に通液し、特異的に吸着したラクトフェリンを、高イオン強度の溶離液で回収して調製する、あるいは、ヒトラクトフェリンの遺伝子を組み込み、大腸菌などの微生物

(Biotechnology, vol.13, p498, (1995))が产生する組換え型ヒトラクトフェリンを用いることができ、これらは市販されている。タウリンとしては、特開昭59-73561号の方法などに準じ、タコ、イカ、アコヤガイなどの魚介類を煮た煮汁から、活性炭、イオン交換樹脂などを用いて精製する、あるいは、ウシやブタなどの胆汁を加水分解して調製することができ、これらは天然食品添加物として市販されている。アルギニンとしては、例えゼラチンを加水分解して得ることができ、これは天然食品添加物として市販されている。コレステロールとしては、卵黄、バターオイル、魚油、羊毛ロウ(ラノリン)などから精製したものが用いられ、これらは市販されている。リン脂質としては、大豆、卵黄、牛乳などから精製したレシチンなどが用いられ、これらは市販されている。ドコサヘキサエン酸としては、カツオやマグロなどの魚油や、藻油などを用いることができる。アラキドン酸としては、卵黄、魚、藻などの油を原料油脂として用いることができ、これらはアラキドン酸素材として市販されている。シアルオリゴ糖としては、特開昭59-184197号の方法などに準じ、牛乳や動物臓器から調製したシアル酸結合オリゴ糖を用いることができる。 β -カロチンとしては、パーム油、にんじん、マンゴー、あんずなどの植物から抽出したものが用いられ、これらは天然食品添加物として市販されている。 α -トコフェロールとしては、大豆油、綿実油、コーン油、小麦胚芽油、米ぬか油などを原料に精製したものが用いられ、これらは天然食品添加物として市販されている。

【0008】

【実施例】以下の実施例をもって本発明をより詳細に説明するが、これらは単に例示するのみであり、本発明はこれらによって何ら限定されるものではない。

【0009】

【実施例1】

免疫グロブリンの調製

ウシ初乳10Lを遠心分離(3,000×G、10min、5°C)により脱脂した後、分画分子量100,000の膜を設置した限外ろ過装置ダイアフロー(アミコン社)で10倍に濃縮し、濃縮液を凍結乾燥して免疫グロブリン500gを得た。

【0010】

【実施例2】

ラクトフェリンの調製

脱脂乳200Lを硫酸化セルロファイン(富士紡績社)を充填したカラム(4cm×30cm)に通液し、特異的に吸着したラクトフェリンを、1M食塩水で溶出させて分離した。溶出液を電気透析装置TS-2-10(TOKUYAMA)で脱塩した後、凍結乾燥してラクトフェリン40gを得た。

【0011】

【実施例3】

シアリルオリゴ糖の調製

チーズ製造時に得られたホエイ800Lを、分画分子量10,000の膜を設置した限外ろ過装置UF-1-LAB (Filtration Engineering社)で処理し、透過液を回収した。透過液を5°Cで冷却して沈殿物を除去した後、上清液を陰イオン交換樹脂Dowex 1×4 酢酸型 (15cm×50cm)に通液してシアリルオリゴ糖を吸着させ、1M酢酸ナトリウム溶液で溶出させて回収した。溶出液を電気透析装置TS-2-10 (TOKUYAMA)で脱塩した後、シアリルオリゴ糖80gを得た。

【0012】

【実施例4】

栄養強化組成物の製造・1

タウリン（田辺製薬社）5g、アルギニン（協和発酵社）50g、及び実施例3で調製したシアリルオリゴ糖60gを50°Cの温水1Lに溶解した。一方、コレステロール（吉川製油社）30g、30%DHA含有カツオ油（マルハ社）170g、25%アラキドン酸含有油脂（SUN-TGA25、サントリー社）80g、30%β-カロチン含有パーム油カロチン（ライオン社）0.2g、40%α-トコフェロール含有理研Eオイル（理研ビタミン社）2.5gを混合して50°Cに加温した調合油に、90%リン脂質含有レシオンP（理研ビタミン社）22gを加えた後、先に調製したアミノ酸溶液とともに均質化させた。この均質化液を Pulvis Spray Dryer Model GB-21 (YAMATO)で噴霧乾燥し、乳児用調製乳栄養強化組成物粉末400gを得た。得られた組成物の成分組成を、表1に示す。

【0013】

【表1】

成分	含量(重量%)
蛋白質	14.0
脂質	65.0
タウリン	1.2
アルギニン	11.9
シアリルオリゴ糖	14.3
コレステロール	7.1
リン脂質	4.8
ドコサヘキサエン酸	11.9
アラキドン酸	4.8
β-カロチン	0.01
α-トコフェロール	0.24

【0014】

【実施例5】

栄養強化組成物の製造・2

初乳粉末（日本プロテイン社）2kg、ラクトフェリン（日本プロテイン社）5kg、タウリン（田辺製薬社）5g、アルギニン（協和発酵社）50g、及び実施例3で調製したシアリルオリゴ糖8gを50°Cの温水45kgに溶解してタンパク質溶液を調製した。一方、コレステロール（吉川製油社）30g、30%DHA含有カツオ油（マルハ社）170g、25%アラキドン酸含有油脂（SUN-TGA25、サントリー社）80g、30%β-カロチン含有パーム油カロチン（ライオン社）0.2g、40%α-トコフェロール含有理研Eオイル（理研ビタミン社）2.5gを混合して50°Cに加温した調合油に、90%リン脂質含有レシオンP（理研ビタミン社）22gを加えて十分混ぜた後、先に調製したタンパク質溶液と合わせて均質化させ、栄養強化組成物1Lを得た。栄養強化組成物は、10mlずつ分注した後、-20°Cで凍結保存した。得られた組成物の成分組成を、表3に示す。

UN-TGA25、サントリー社）80g、30%β-カロチン含有パーム油カロチン（ライオン社）0.2g、及び40%α-トコフェロール含有理研Eオイル（理研ビタミン社）2.5gを混合して50°Cに加温した調合油に、90%リン脂質含有レシオンP（理研ビタミン社）22gを加えて十分混ぜた後、先に調製したタンパク質溶液と合わせて均質化させた。この均質化液をスプレードライヤーで噴霧乾燥し、育児粉乳用栄養強化組成物粉末7.3kgを得た。得られた組成物の成分組成を、表2に示す。

【0015】

【表2】

成分	含量(重量%)
免疫グロブリン	27.1
ラクトフェリン	67.9
タウリン	0.07
アルギニン	0.68
シアリルオリゴ糖	0.1
コレステロール	0.41
リン脂質	0.27
ドコサヘキサエン酸	0.68
アラキドン酸	0.27
β-カロチン	0.001
α-トコフェロール	0.014

【0016】

【実施例6】

栄養強化組成物の製造・3

実施例1で得た免疫グロブリン粉末23g、実施例2で得たラクトフェリン50g、実施例3で調製したシアリルオリゴ糖10g、及びタウリン（田辺製薬社）0.2g、アルギニン（協和発酵社）4gを50°Cの温水900mlに溶解してタンパク質溶液を調製した。一方、コレステロール（吉川製油社）3g、30%DHA含有カツオ油（マルハ社）14g、25%アラキドン酸含有油脂（SUN-TGA25、サントリー社）8g、30%β-カロチン含有パーム油カロチン（ライオン社）10mg、及び40%α-トコフェロール含有理研Eオイル（理研ビタミン社）0.28gを混合して50°Cに加温した調合油に、90%リン脂質含有レシオンP（理研ビタミン社）1.2gを加えて十分混ぜた後、先に調製したタンパク質溶液と合わせて均質化させ、栄養強化組成物1Lを得た。栄養強化組成物は、10mlずつ分注した後、-20°Cで凍結保存した。得られた組成物の成分組成を、表3に示す。

【0017】

【表3】

成分	含量 (g/100ml)
免疫グロブリン	2.3
ラクトフェリン	5.0
タウリン	0.02
アルギニン	0.4
シアリルオリゴ糖	1.0
コレステロール	0.3
リン脂質	0.1
ドコサヘキサエン酸	0.4
アラキドン酸	0.2
β-カロチン	0.0003
α-トコフェロール	0.011

【0018】

	タウリン	アルギニン	コレステロール	リン脂質	DHA	AA	シアリルオリゴ糖	β-カロチン	α-トコフェロール	Ig	Lf
市販育粉 (13% 調乳)	4.6mg	53mg	4mg	24mg	9mg	1mg	7.5mg	5μg	0.35mg	50mg	5mg
母乳 (0~2週)	5.9mg	86mg	26mg	30mg	38mg	17mg	100mg	34μg	1.38mg	240mg	500mg
育粉 + 本発明品 10ml	6.1mg	88mg	34mg	32mg	48mg	21mg	107mg	35μg	1.42mg	275mg	505mg
母乳 (2~4週)	5.0mg	57mg	18mg	25mg	26mg	10mg	40mg	17μg	0.77mg	150mg	250mg
育粉 + 本発明品 5ml	5.1mg	68mg	19mg	27mg	28mg	11mg	57mg	20μg	0.87mg	160mg	255mg
母乳 (4~8週)	4.5mg	42mg	10mg	20mg	14mg	5mg	26mg	5μg	0.41mg	85mg	100mg
育粉 + 本発明品 2ml	4.6mg	56mg	10mg	24mg	16mg	5mg	27mg	11μg	0.54mg	91mg	105mg

【0020】

【発明の効果】本発明により、タウリン、アルギニン、コレステロール、リン脂質、ドコサヘキサエン酸、アラキドン酸、シアリルオリゴ糖、β-カロチン、及びα-トコフェロールを特定の比率で含有する、栄養強化組成物が提供される。さらに、免疫グロブリン及びラクトフェリンを含有する、栄養強化組成物が提供される。本発明栄養強化組成物は、栄養学的に優れ且つ簡便に用いら

【実施例7】

本発明栄養強化組成物の効果

ヒト母乳の泌乳期の成分変化、及び実施例6で得られた本発明栄養強化組成物を一般的な育児用粉乳に添加した時の各成分の変化を、表4に示す。この結果より、本発明栄養強化組成物を用いることにより、一般に市販されている乳児用調製乳を、簡便に母乳の成分変化に合わせて成分を変化することができる事が確認された。

【0019】

【表4】

れるものであり、容量を適時変えながら乳児用調製乳に添加することにより、泌乳期ごとに異なる濃度の成分を含む人工乳が簡便に調製でき、乳児の未熟な代謝機能に過度の負荷をかけないばかりか、免疫グロブリン、ラクトフェリンなど生体防御機能のある成分をさらに添加することによって、免疫力の弱い出生直後の新生児をさまざまな感染から守ることができる。

フロントページの続き

(51) Int.CI.6

識別記号

F I

A 6 1 K 31/195
31/20
31/355
31/575
31/66
31/70
38/16
39/395

ADD

A 6 1 K 31/195
31/20
31/355
31/575
31/66
31/70
39/395 ADD Y
37/14